



西坂 登さん  
Nishizaka Noboru

〔中山区〕

にしざか・のぼる / 昨年10月から、本町の教育委員長に就任。子どもたちの健やかな成長を願い、住民目線でのより良い教育の実現を目指す。

## 自分、他人、郷土を愛する 子どもの健やかな心を育てたい

「少子化が進む中、これらの地域を担う子どもたちをどのように育てていくか。教育委員長として、甲佐町の未来に貢献していきたいですね」と話すのは、町教育委員長を務める西坂登さん。

教育委員会は、教育に関する事務を管理・執行するために、県や市町村などの地方公共団体に置かれる行政委員会。西坂さんは平成21年から委員を務め、昨年10月に委員長に就任した。

西坂さんは、40年以上県の職員として勤務。「教育委員会の設置目的は、教育を専門家だけで進めるのではなく、世間一般の感覚も取り入れること」と、住民の目線に立ち、本町の教育について考えを巡らせる。

「甲佐町は自然に囲まれ、地縁や血縁が深い地域。そのため、甲佐の子どもたちへとも素直に育っています」と、

環境が教育に及ぼす影響について語る西坂さん。子どもたちの成長には、「学校・家庭・地域の情報の共有」が大切だと考える。「地区ごとに取り組まれている住民による防犯パトロールやあいさつ、声掛けなどは、大変ありがたいことであると同時に、子どもたちの発達にとっても大変よいこと。学校・家庭が連携し、地域がそれを支え、見守るという3者の連携が非常に大切」と話す。

「学力の向上、豊かな心の育成、体力の増強」という『知・徳・体』を育てる「こ」とが教育の柱。その中でも特に、「自分を愛し、他人を愛する心、そして郷土を愛する気持ちをもつまでも持っているてもらいたい」と、子どもたちの健やかな心の成長を願っている。

「地域の子どもたちを、いかに立派に育てて社会に送り出すか、それは教育にかかっている。子どもたちが成長した姿を卒業式で見るのが、一番の楽しみです」と、その笑顔は輝く。